



武蔵野小学校だより

平成28年4月6日

昭島市立武蔵野小学校

校長 濱野 裕美



「生きることのすばらしさを感じる」

校長 濱野 裕美

清新な風吹く4月。朝の校門をくぐると、緑の芝の上で小鳥たちが遊び、武蔵野の森の大きな桜が「今年も美しい花をたくさん咲かせましたよ。」と笑顔で迎えてくれます。明るく優しい武蔵野の風景に「おはようございます。新しい年もよろしく願います。」と挨拶をしました。

67名の1年生の入学、そして、子供たちの進級を心よりお祝いたします。おめでとうございます。

4月の校舎は、ピカピカに磨かれ、どの教室も進級した子供たちを少しすました顔で迎えてくれます。新年度のスタートとともに、子供も教職員も新しい生活への期待に胸をわくわくさせています。そして、本日、全校児童491名で平成28年度武蔵野小学校の第一学期が始まりました。「純粋な心を持ち、一年一年まっすぐに成長していく子供たちの前に毎日立つ教員こそが、大人としての手本です。子供たちの目標であり、憧れの象徴となれるように努力してください。」と昨日の職員会議で話をしました。

私は4月になると、10年前に目にしたその当時83歳であった、ある方の文章をいつも思い出します。



～まだ小学生だった75年ほど前、家の近くにあった学校から、夕方になるとオルガンの音が聞こえてきました。その音色に惹かれ、音のする教室に近づいて背伸びして窓からのぞくと、オルガンは担任の先生が弾いていたのでした。それから私は、夕方の教室に行き、先生のオルガンを聞くことが楽しみになりました。しかし、先生は、結婚のために学校を辞めることになり、それ以後、オルガンの音は消えてしまいました。けれど、夕方になると、オルガンの前でまるで別の生き物のように弾んだ先生のしなやかな指と、その美しい音色は、私の小学校時代の鮮やかな記憶として心の中に生き続けています。～



子供の素直な心に、小学校時代の記憶は美しく宝石のように輝き続けているのだと思いました。そして、この文を読む度に、大事な小学校の6年間、子供たちとともに過ごし、深く関わる私たちの責任は大きいと改めて感じるのです。

私は、生きる喜びを十分に体得している子供は、生きる力を身につけることができると考えています。ご飯をおいしく食べて思い切り運動する。そして、美しいものを見てきれいだなぁと感じたり、初めての体験に感動したり・・・生きていることのすばらしさを感じられる心と体を育てることが、小学校生活の中で一番大切なことではないかと思うのです。健康な体と豊かな心をもった子供たちは、自分自身を成長させるエネルギーを獲得することができます。そして、もっと勉強していろいろなことを知りたいという知的好奇心を高めていきます。生きる力は、知・徳・体の調和にあります。健康な体と豊かな心を土台として知力は身に付いていくと考えます。

こういった武蔵野小学校の経営方針を基盤に、明るく元気な子どもの心と体を育てるとともに、自然や文化などと積極的に関わりながら自分自身を成長させていくことができる子供・・・「多くの関わりの中で命輝かせる子供」の育成を本年度も目指したいと思います。そして、手をつなぐ学校・家庭・地域として、子供たち・教職員の笑顔が家庭・地域へとつなげられるように保護者・地域の方々から信頼され、愛される健全で明るい学校を創っていきます。どうぞご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



